

氏名

点数 点/100点

各論演習 42-1

問1)

以下の設問 (1) ~ (5) の文章について、正しいと思うものには○印を、正しくないと思うものには×印を付し、×印としたものについてはその理由を簡潔に記述しなさい。また、(6) の記述のうち①~⑥について、適切な語句を語群より選び記入しなさい（なお、語群から選択する語句は何度も使用する可能性がある。）。

〔設問〕

- (1) キャッシュ・フロー計算書が対象とする資金の範囲は、現金同等物のみである。
 - (2) キャッシュ・フロー計算書における現金同等物とは、容易に換金可能なもののすべてである。
 - (3) キャッシュ・フロー計算書には、営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フローの区分を設けなければならない。
 - (4) 営業活動によるキャッシュ・フローは、主要な取引ごとにキャッシュ・フローを総額表示する方法により表示しなければならない。
 - (5) 「営業活動によるキャッシュ・フロー」の表示方法は、原則として直接法により表示し、一定の要件を満たせば間接法による表示も認められる。
- (6) 利息及び配当金に係るキャッシュ・フローの表示区分について、2つの方法

	1つ目の方法		2つ目の方法	
受取利息			④	によるキャッシュ・フロー
受取配当金	①	によるキャッシュ・フロー		
支払利息			⑤	によるキャッシュ・フロー
支払配当金	②	によるキャッシュ・フロー		
考え方	<p>この方法は、キャッシュ・フローに係る取引が (③) の算定に含まれるか否かという点を重視した方法である。これは、営業活動によるキャッシュ・フローは、可能な限り (③) とキャッシュ・フローのズレを把握することができるように算定すべきとする考え方に基づいている。この考え方に基くと、(③) の算定に含まれる「受取利息」、「受取配当金」及び「支払利息」を (①) によるキャッシュ・フローの区分に記載し、(③) の算定に含まれない「支払配当金」を (①) によるキャッシュ・フローの区分に記載しないことになる。なお、「支払配当金」については、(②) によるキャッシュ・フローの区分に記載する。</p>		<p>この方法は、キャッシュ・フローに係る取引が投資上の (⑥) の結果生じた成果と捉えられるのか、資金調達という財務上の (⑥) の結果生じたコストと捉えられるのかという点を重視した方法である。これは、利息や配当金に係るキャッシュ・フローを、その発生原因となる活動の性格に基づき、キャッシュ・フロー計算書の関連する区分に記載すべきとする考え方に基づいている。この考え方に基くと、投資上の (⑥) の結果生じた成果と捉えられる「受取利息」や「受取配当金」は (④) によるキャッシュ・フローの区分に記載し、資金調達という財務上の (⑥) の結果生じたコストと捉えられる「支払利息」や「支払配当金」は (⑤) によるキャッシュ・フローの区分に記載することになる。</p>	

【語群】

・営業活動 ・投資活動 ・財務活動 ・損益 ・資産、負債 ・意思決定

解1)

	○/×	×の場合、その理由
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		
(5)		

		語句
(6)	①	
	②	
	③	
	④	
	⑤	
	⑥	

